

新執行部の横顔

成岡 秀夫



●No.2はトップをサポートするのが役目

このたび副支部長を拝命いたしました。副支部長とはなんぞや、という議論もあるかもしれませんが、会社で言えば副社長に該当するポジションだと心得ています。社長が組織の責任者ではありますが、一人ですべてをカバーすることはできません。また、一人に何もかも集中すると、組織の健全な意思決定の妨げにもなります。

ゆえに、セカンドポジションの大事なことは、「牽制とサポート」という一見矛盾することを、力まずにやることだと思っています。これは、どこまで行ってもトレードオフの関係にありますから。

さて、当診断協会では、今期の最重要課題である、新診断士制度への対応プロジェクトが、ようやく始まりました。といっても、まだ、具体的な議論には入ってはいませんが、とにかく、支部として何らかのアクションを起こす必要があります。成岡は、副支部長として、この重たいプロジェクトの責任者でもあります。この舵取りが、支部の今後の趨勢を決める大きな要素になることは、間違いないと思います。そういう意味では、トップを支えると同時に、新しい改革の一端を担うという、重たいミッションを背負ってのスタートとなりました。

まだ支部活動にも年数が浅いので、先輩諸兄の絶大なご支援をお願いするところです。よろしくご指導ください。

坂本 淳



時代の変化の中で、診断士に求められるもの、診断士を取り巻く環境も大きく変わってきています。同時に、中小企業診断協会京都支部が求められるものも多様化しています。

今年度、私は主に会計とホームページを担当させていただきますが、支部の活動全体の中で他のご担当の方と連携を取り、支部に役立つ行動を心がけたいと思います。支部活動が活発になると同時に、会計に関しても迅速で適切な対応が求められます。

事務担当の方と連携を取り、リアルタイムで透明性のある経理・会計処理を管理したいと思います。また、ホームページを活用した広報、会員の皆様への迅速で適切な情報提供、さらには支部の情報化の推進に積極的に取り組みたいと考えております。

中村 久吉



子供の頃から練習が嫌いで、いつもぶっつけ本番でコトに臨んできました。従って、いつの間にか直前追い込み型の人間になり、追い込みに成功したり失敗したりの場合、人生になっていくようです。反面、腰は軽い方で、狭いネットワークに軽いフットワークこそまめタイプと評されています。(そう言えば私はネズミ年生まれです)

で、診断協会京都支部で何をやるのかと言えば、特段の得意技を持ち合わせていませんので、とにかく小間使いから始めて縁の下の力持ちみたいなコトをするのが妥当なところかと思っています。事務や総会運営のお手伝い、今年は会報誌「診断京都」の編集、企業内診断士活性化、リレバンを核とした金融機関連携の構築、個人情報保護の役割といった内容です。

もう一つ、どういう訳か、私は人から愚痴を良く聞かれます。多分、羨望箱と思われるのでしようが、老若男女を問わず半世紀にわたり人様のストレス解消に役買って来たように思います。その様に、私はモノを云いやすいタイプだろうと思いますので、多くの会員の皆様からの様々な提案・愚痴をも承ります。何でも結構ですので、お気軽にお申し付けください。

研究会報告

研究会名/代表者	活動報告
経営品質研究会 藤原 茂寿	平成18年度の当研究会の活動は①各府県の経営品質賞を受賞した小規模企業等の事例研究、②経営品質に関連した考え方・手法等の研究、③昨年9月に設立された京都経営品質協議会の活動に参画すること(当研究会は本年6月に協議会入会済)の3つです。また、実践活動として小規模事業者等を対象にしたセミナーを実施予定です。経営品質に関心のある会員はぜひご連絡ください。(なお、研究会は2ヶ月に1回開催)
農業経営支援研究会 山崎 忠夫	昨年度の「調査研究事業」の結果を受けて、研究会を立上げ。参加メンバー11名(松野修典、品川弥太男、安田徹、辻一幸、西河豊、岡原慶高、横倉幸司、山本知美、秋田英幸、坂本淳、山崎忠夫)3つの研究グループに分け活動中。既に、「京都ファーム」の診断準備に入るなど診断士の新しい活動領域の拡大に向けて着々と取り組みを進めている。